

2022年7月27日

報道各位

入間小のケヤキを
未来につなぐ会

狭山市に 16,082 筆の署名を提出

— 概要 —

- ✓ 狭山市長と市街地整備課に 16,082 筆（オンライン+紙）と寄せられた声 112 件を提出
- ✓ 担当課に対面で要請と意見交換

入間小のケヤキを未来につなぐ会は7月20日、オンライン署名サイト「change.org」で寄せられた賛同者のリストと署名用紙で寄せられた直筆の署名を合わせた**16,082 筆を狭山市長に提出**しました（署名原本は都市建設部市街地整備課に提出）。同時に、賛同者から寄せられた**コメントや意見を載せた 112 件の声も提出**しました。また、**市街地整備課と 1 時間程度の話し合いを実施し、署名の内容の要請と意見交換**を行いました。

署名と声の内訳

【署名】

オンライン署名（change.org）賛同者数	15,578 名
紙の署名数	504 筆
合計	16,082 筆

【寄せられた声】

112 件

担当課との話し合い概要

【日時】 2022年7月20日 13時30分から14時30分頃まで（予定は14時頃まで）

【場所】 狭山市役所（狭山市入間川1-23-5）2階

【出席者】 〈市街地整備課〉 伊藤課長（都市建設部次長）、他2名
〈当会〉 代表 福住、他2名

【発言内容】

まず、当会から署名数の報告と署名記載の請願事項の要請を行いました（請願事項：入間小跡地のケヤキの立ち木の伐根中止と現位置での保存・活用を前提に、複合商業施設の設計変更やケヤキの管理方法等についてイオンリテール株式会社との協議を開始すること）。



次に、市街地整備課からケヤキの伐根決定に至る経緯を聴取しました。この中で、ケヤキの移植を検討したが断念したと市議会や広報で伝えられた内容について、樹木医の診断書等がなく**根拠が不十分であることがわかりました**。さらに、移植の検討は市から樹木医への公的な依頼ではなく担当職員（当時）の**知り合いの樹木医に聞いたという私的な手段で済まされていたことが明らかになりました**。複合商業施設内にケヤキを残すことへの市の懸念事項として（１）近隣から落ち葉の苦情が来ている事（２）維持管理の問題（３）高所からの枝落下による人や車への危害——が挙げられましたが、当会から他店舗の事例や考えられる対応策を提示しました。またケヤキを残すことについて、**イオンにとっては何が懸念事項でどのような対策が可能かをそもそも市が聴取していないことがわかりました**。

当会からはオンライン署名が15,000筆超に至った経緯や署名者の内訳を伝え、署名の重みを訴えました。伊藤課長からは、「ケヤキを残したままでは憩いのスペース（イオンそよら入曽で計画されているキッズパークやブックカフェ）が無くなる。」「**はたして入曽のためになるのか？ 考えて欲しい**」と発言*がありました。当会からは**ケヤキを残すことこそが“入曽のため”**になり、歴史のあるケヤキがあるまち、ケヤキがある複合商業施設が入曽の魅力になりうることを主張しました。

これら当会からの要請について、「ご意見として受け止める」「私（課長）一人で決められないが、伝える」との回答を得ました。

※）これは商業施設を公募する前の市民へのアンケート結果（『R3年度 入間小学校跡地に誘致する複合型商業施設に関する調査』で本屋や憩いの空間の要望が多数）を根拠とする発言と考えられますが、そもそもこの時点でケヤキの伐根は未決定で、**市民がケヤキより憩いのスペースを優先するよう希望したのではなく不適当です**。



市街地整備課伊藤課長（左）に署名を提出する代表



この件に関する
お問い合わせ先

電話 050-3635-1920（代表 福住）

Eメール keyakinomirai1920@gmail.com

オンライン署名サイト（<https://www.change.org/keyakinomirai>）はこちら▶

